

こみこみ

日立市のコミュニティ情報紙

発行：日立市コミュニティ推進協議会
編集：コミュニティ情報紙編集委員会
〒317-8601 日立市助川町 1-1-1
日立市役所市民活動課内 Tel 22-3111
Fax 21-7000

No. 1

1999.10.1



目次	
ザ・特集2
工夫してます私の地域の環境事業	
グループ情報4
北茨城市 自然わくわく研究会	
日立市 ウェーブ	
「私のリーダー論」6
単会リレー訪問7
中里を住みよくなる会	
明るく住みよい久慈まちをつくる会	
日立のよいところ8
朝の平和通り	
わがまちの匠たち8

不法投棄ごみの撤去作業

9月5日(日)に行われた茂宮川郡長橋付近の河川敷の不法投棄ごみ撤去作業の様子。地元住民、市役所職員のほかに、市内の他地区の住民も作業に参加し、総勢約80名が官民一体となって約4トンのごみを回収。約3時間の作業で右の写真のように大変きれいになりました。

市内の環境をきれいにする活動が各地で行われています。



発刊にあたって

日立市のコミュニティ活動は、多くの組織・市民によって行われています。

現在は、ますますコミュニティ組織の活躍が期待されており、その分野は福祉、環境、青少年育成、交通安全、自主防災など多岐にわたっています。

このような中、活動計画・推進に苦心されている組織や個人は多いのではないのでしょうか。本紙は、それぞれの組織が事業を行うに当たって参考となるように、市内、市外の各種団体の活動事例を中心に編集をしています。

また、活動を進める上で、地域の資源を発見する

ことも大切です。日立市のよいところ、わがまちの匠たちのコーナーでは、市内の情報を取り上げていきます。

この情報紙のタイトルの「こみこみ」はコミュニティ、コミュニケーションの頭文字をとって名付けました。また、コミュニティや日立市の資源などをたくさん「込み込みで」掲載していくという意味も込められています。

発刊にあたり、この情報紙がみなさまの地域活動発展の一助となることを期待してごあいさついたします。

(日立市コミュニティ推進協議会会長・鈴木 勝美)

安全で健康な生活を送るため

私たちは特集のテーマとして日立市コミュニティ推進協議会の今年度の重点目標の一つ「環境美化活動の推進」を取り上げました。

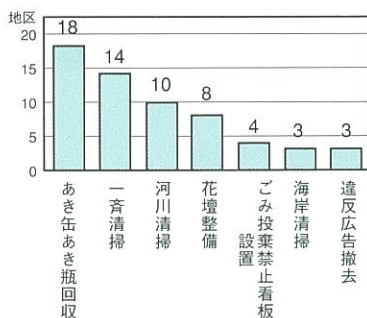
うるおいとやすらぎを感じながら安全で健康的な生活を送るための、各地区の様々な努力をシリーズでお届けしたいと思います。

どうぞお楽しみに。

第1回は、市内各地域の取り組みをご紹介します。

なんととっても空き缶・空き瓶
市内の22学区に地域での環境問題

にどのように取り組んでいるか、アンケート形式で答えていただきました。各地域で特に力を入れている事業および内容は次のとおりです。



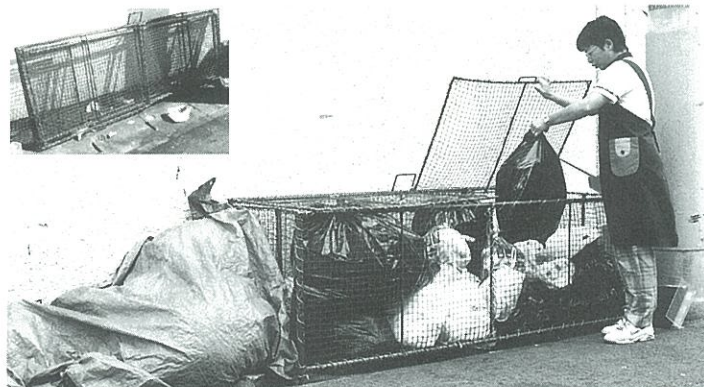
その他、少数の項目としては、

- ・放置自転車の回収
- ・イワナのつかみどり
- ★壁面による環境整備
- ・生活意識調査
- ・はまぎく植え
- ・精霊おくり
- ・環境標語募集
- ・「花の里親」制度
- ★企業参加による河川清掃
- ★生ごみ対策（カラス）
- ・パトロール など

以上の中から、今回は★印の事業について取り上げてみました。

カラスとの戦い、環境美化部長奮戦記

(助川まちづくり協議会)



萩野谷さんおすすめのゴミかご。折りたたみ式で街中でも便利
班長就任をきっかけに

環境美化部長の萩野谷さんは、以前は、ごみの出し方などまるでいい加減だったという方でしたが、再生資源回収の班長になったのがきっかけで、就任したその日から徹底したカラスとの全面対決が始まりました。そしてその実績で、2年前には環境美化部長になりました。

助川まちづくり協議会は日立の中央部にあり、この地区は繁華街となっています。飲み屋、飲食店のごみを狙って急激にカラスが増え続けてしまいました。人にできないことをやってみようと思った部長さんは、カラスに関する専門家並みの情報収集・現況調査・撃退行動を同時並行で開始しました。まずはカラスを増やさない

1羽の雌が平均4個産卵。4羽が

育つとすると、放っておくと瞬く間に1羽が50羽にもなってしまうそうです。

何度か来ても、思うように餌にありつけなければ、カラスはあきらめて移動し

ていきます。

餌となるものを表に出さない

萩野谷さんの1日は午前2時に始まります。4時30分（7月末）のカラス到来までに、野良猫・野良犬の

荒らした網やごみを片付けなければなりません。42~43か所の集積所を自転車で回り、散乱しているごみを集積所の網に入れます。さらに夜が明けてからも60か所を回り、ごみをカラスに食べられないようにします。カラスのいるところ必ずごみの不始末あり。カラスが降りる前に始末しなければなりません。かくして9時過ぎにカラスとの戦いが終わるまで100か所のごみ集積所を回ることになります。

飲み屋さんにごみのふたがこわれていると電話し、面倒くさがるのどこぞの奥様のためにごみを入れる場所を確保してあげる。このカラスはどこから来てどこに帰るのか？繁殖率は？好物は？

好敵手との戦いが続きます。

番外編 散策道路実現の夢

日立市の北部、十王町との境界付近を流れる十王川は、サケが自然繁殖をしたり、蛍が生息しているなど豊かな自然が残っている川です。今、十王町と豊浦地区の有志たちの間で「子どもたちが十王川の自然にふれる場として、散策道路をつくる」というプランが描かれています。先日活動の第一歩として茨城県高萩土木事務所に要望書を提出しました。

実現までには、まだ多くの課題が

ありそうですが「子どもたちへ豊かな環境を」という夢をかたちにすべく、今活動が始まったところです。



十王川の豊かな自然にふれたい

私の地域の環境事業

みんなで描いた地下道壁画

(金沢小学区住みよいまちをつくる会)



学生と住民の手で、楽しい地下道に壁画を描く前は……

地区住民から台原中学校裏の地下道が暗い・汚い・怖いという声が出ていました。先生方が中心となって、何度か落書きを消していましたが、落書きはあとを絶たず、解決策が見つからないままでした。

たまたま……

学区役員が川崎市で見た道路の壁画がヒントとなり、地下道へ壁画を描くというアイデアが生まれました。さっそく台原中学校と協議をし、学区の役員会で事業を行うことが決定しました。しかし、当初の予定にはなかった事業だったため、経費を強く抑えることを検討。環境美化部と安全防災部の担当でスタートしました。

4ヶ月、たくさんの人手で

実際の作業は平成10年9月からスタート。水洗い・3度の下塗り、乾燥・下絵・色付けをして12月末に完成しました。

壁画を描いたのは台原中美術部の女子生徒が1週間で延べ50人。先生方3人・学区役員8人・老人会7人・ライオンズクラブ3人・自主参加の地域の方20人は、清掃や下地塗りを行いました。暗い・汚い壁は見違えるように明るく、きれいに楽しくなりました。

さらに、予定外の場所まで

地下道がきれいになってくると「周囲の壁も何とかしよう」という声が自然発生的に起こり、老人会や

自治会など地域の人たちの手で周囲の壁も明るくきれいになりました。

何がすばらしいかという、まず、地域の問題を自身の問題としてとらえ、常に思案する役員がいること。次にその声を前向きに検討し、自分たちの責任として取り組み、支えることができる役員がいること。周囲を巻き込み三世代が協力しあって行動できる住民が多いことです。



「俺たちもやるぞ」

住民と企業が一致団結

(数沢川をきれいにする会)

「助川まちづくり協議会」には、5つの専門部と14の支部のほかに、特殊な活動を専門的に行う5つの団体が協力団体として参加して運営されていることが特徴となっています。その協力団体のひとつが「数沢川をきれいにする会」です。

数沢川は、昭和20年代までは住民に愛された大変きれいな川でしたが、流域の宅地化、都市化が進むにつれて、単なる排水路と化し、汚濁やごみの投棄などで無残な状態になってしまいました。これを見かねた地域住民が、一人二人と川の環境美化活動を始めたのがきっかけとなり、昭和59年、学区コミュニティの中に「数沢川をきれいにする会」が設置されました。

この会には、流域住民のほかに日立電線(株)と日立セメント(株)が「企業の地域内環境に対する自己責任」の

心配は思い過ぎだった

今まで平気で汚してきたのだからきっと作業が終わった途端に汚されるだろう。あれだけみんなが大変な思いをしてきたのに「そーらみろ。だから無駄なことだとはじめっから言っただ」と言われてしまう。

環境美化部長は、心配で毎日見に行っては「すごいよ。今日もきれいだったよ。」と言っていたそうです。それから9ヶ月、地下道は写真のとおり楽しくきれいなままです。だれとなくごみを拾ったりしてくれます。自分たちの手で作り上げたもの、一生懸命完成させたものを大切にする姿勢が生まれたようです。

さらに、ひそかに?!

役員たちは夢を実現しようと構想を練っています。学区内の小学校・幼稚園でも生徒や地域の人と壁画づくりに挑戦しようか?

今後、この地域ならではのどんなドラマが生まれるか、どんな目玉が飛び出すか、地域の皆さんの活躍が楽しみです。



川面が写す共働作業

現在、きれいな流れとなってきた数沢川の川面には、地域内住民と企業の手をつなぐ姿がきらきらと映っているようです。

楽しく学ぶ身近な自然

北茨城市・自然わくわく研究会

PTAの事業がきっかけ

茨城県の北のはずれ、北茨城市を中心に活動している「自然わくわく研究会」は、1993年5月に発足し、7年目を迎えています。スタッフは8名、会員は100名前後で、大人から子どもまでさまざまです。

精華小学校PTAの事業で、「自然観察ハイキング」を行ったことがきっかけで、PTA以外での活動を求められ、おかあさんたちが主体となって発足しました。

季節にあわせた事業を展開

自然わくわく研究会の自主開催事業は年間8～10回。「早朝道草ウォッチング」「枯れ枝でコサージュづくり」「野草の天ぷらを味わう会」「漂着物を拾いながら海の環境を考えよう」「ムササビウォッチング」「お月見ナイトハイク」などなど。時間も参加対象者も実にさまざまですが、季節に合わせて、美しい海、豊かな森、伸びやかな流れに触れ、自分たちのまちが、いかによいところかを認識し、毎日の生活の中で、楽しみながら自然を感じ、大切さを学びます。

準備は念入りに行います。スタッ



何がとれるのかな？



熱心に解説を聞く子どもたち

フの打ち合わせを十分に行い、実施日直前に必ず下見をします。自然が相手なだけに、日々変化しているからです。

また、ニュースレター（情報紙）を、年間約10回発行しています。お知らせや事業報告の他、近所で見つけた虫の解説や自然の中での遊び方など、盛りだくさんの内容です。1家族1500円の年会費を印刷・郵送費に当てています。

市のモデル事業にも

平成5年、北茨城市生涯学習推進本部のモデル事業に指定されました。現在、市教育委員会協力事業としてエコミュージアム（生きた自然博物館）親子自然観察会を年6回のシリーズで実施しています。70～90名が参加しています。

夢は自分たちのフィールド

「木を倒したり、作物を育てたり、小屋を作ったりできる、水と森と畑のある自分たちのフィールドを持つ

のが夢」と澤田さんは話しています。

澤田さんは会の要

自然わくわく研究会の会長を務める澤田清さんは、若いときから山登りを続けてきた救急救命士です。

自然の素晴らしさを多くの人に伝



澤田 清さん

えたいとの思いから、1987年に自然保護協会の自然観察指導員の資格を取得、サブレンジャーとして活動しました。その後、身近にある地元の豊かな自然を、子どもたちと一緒に、より多くの人に感じてほしいと、PTAの成人教育委員長を務めたのをきっかけに、仲間と共に会を発足し、リーダーを務めています。

問い合わせ先

レストラン『パンプキン』内
自然わくわく研究会事務局
TEL0293-42-1818

自立を支えるサポーター

日立市・ウェーブ（自閉症者の自立を支える会）

自閉症ってなに？

自閉症というと心の病と誤解されがちですが、情緒だけの障害ではなく、脳の発達アンバランスのため、能力もアンバランスになる発達障害と考えられています。症状はいろいろですが、特に周囲とのコミュニケーションがうまくとれないために社会生活に適応しにくく、就職して自立することは難しいということです。

『ウェーブ』のスタート

平成8年10月、日立市内を中心とした自閉症者の家族やボランティア30人が『自閉症者の自立を考える会』（『ウェーブ』濱松恵子代表）を結成しました。サッカーのサポーターたちがチームを応援するウェーブから名づけ、自閉症者が地域の中で生き生きと生活できるように、職場づくりと余暇活動を中心にさまざまな支援をめざしてのスタートです。

翌年3月には、日立銀座通りに『ウェーブショップ』をオープン。我が子の自立を願う親の気持ちをボランティアの人たちが支えています。



イベント会場にも出店



おいしそうなクッキーができあがりました

『MM工房』と『さち工房』

現在、『ウェーブショップ』では2つの工房が活動しています。

『MM工房』のスタッフは、細川真悟さんご両親の義和さん、紀久子さん。パソコンを使って名刺、はがき、シールなどのプリントを引き受けます。

『さち工房』では双子の堀内聡子さん、千恵子さんが母親の恵子さんと一緒にハーブを使ったケーキ、クッキーを焼いています。市内のいろいろなイベントに出品しているので、見かけて買った方も多いかも。

細川さん、堀内さんともに、最初は自宅で仕事を始めたのですが、拠点ができたことで、『職場』ができたという安心感があるといいます。細川紀久子さんにお話を伺いました。「我が子の力を発揮するのはこの方法しかなかったと思う。難しい子でも手間と時間をかければできるということをわかってもらいたい。」



パソコンで作業中

『ウェーブ』では、家族で独立して始めたいという方の相談にのり、支援していく窓口はいつでも開けてあるということです。

余暇活動

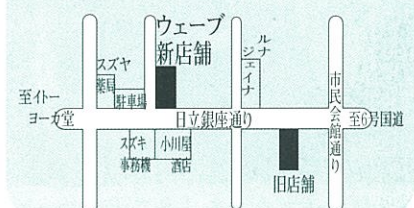
地域で働いている自閉症者を対象に、余暇の楽しみを色々、経験できるように支援しています。ウェーブには、約60人の賛助会員（自閉症児・者やその家族、ボランティアなど）がいて、レクリエーション指導者の栗本恵美子さんをリーダーにスキー、料理教室、カラオケ、映画館へ行くなど、様々な企画を実行しています。

地域活動にも参加

たくさんイベントに参加して、元気のあるウェーブをアピールしているので「イベント会場で見かけたときは応援してください。」とのこと。

問い合わせ先

『ウェーブショップ』
日立市弁天町1-13-10
Tel・Fax0294-25-0755





時代は「共に歩む」たくさんのリーダー

鈴木 敏久 沼津市・愛鷹地区社会福祉協議会企画委員長

あなたにとって地域にはやさしさや輝きが見えますか。

コミュニティ活動も地域づくり観点での推進の必要性が叫ばれてから早、何年もの月日が経過しております。しかし現実、どこの地域においても役員主導であったり、行事中心での体系は依然変わらず、義務感が先行して地域にかかわっていることが多いのではないのでしょうか。まだまだ魅力づくりには程遠いような気がします。なぜでしょう。特別自分自身が何もしなくても変わらない毎日、困らない毎日だからですか？

しかし、家庭環境や社会情勢も変わり、地域機能に期待される部分も多くなってきたことも事実です。

特にこれからの地域活動に必要な要素をあげてみます。

①楽しさの創造を皆の手で

地域活動は楽しみがなければ人は集まりません。楽しい企画運営を手掛けたいですね。

②住み良い地域づくりに向けての活動展開の必要性

地域づくりとしてのコミュニティ活動とは、テーマが日常に目が向けられるということですから、多方面からの活動の確立が必要になってきます。小グループの育成による多機能をつくりだしたいですね。それを大きな地域力に育てあげましょう。ボランティア活動もその一つです。

③地域の夢、大いに語ろう

長期展望に立った地域のあり方や夢を語り、企画運営につなげよう。



がんばる子どもたち「ミニデイサービス」

④地域素材を生かし、一人一人が主役になれるようなステージづくりを

皆で取り組む雰囲気づくりは、参画意識を高めます。

⑤継続性ある活動を通し人づくりを

もし自分のできることで地域とかわることができるとしたら「地域」はより身近になります。活動を通し、後継者・人づくりをしましょう。

これからの地域コミュニティ活動は、このような機能をいかにしてつくりあげるかが課題ともいえます。

そして、リーダー像も時代とともに少しずつ変わってきたと思います。一人のリーダーによって機能した地域社会から、今では地域を支えるのは多くのリーダーであり人です。

特にこれからのリーダー像として期待される人とは、

①こだわり精神のある人は、何事にも熱心

②地域活動には評論家はほらない

楽しくともに活動する中に、自己の確立とリーダー像を描こう。地域づくりは実践によって築かれるといっても過言ではない。

③行動力と自分の持ち味を生かそう

人の上に立って何かができるのではなく、自分がどうかかわっていくかが大切である。

④地域にとってどうなのか

自分の考えでブレキにせず、地域を前向きに見られる人

⑤リーダーは吠えない

活動を通し、添える手にぬくもりを感じさせる人間像

グイグイ引っぱりリーダー像から、地道な活動を通し共に歩む姿にこそ「リーダー」としての称号が与えられる時代になってきました。言い替えれば、楽しく活動するうちにいつしか皆がリーダーの時代ということです。

私たちの地域における福祉活動においても、

この4年ほどの間にボランティア活動の組織化(300名、23グループ)、ミニデイサービス、授産活動、無料喫茶コーナー、給食サービス、福祉相談事業など地域機能として確立を図ってきました。「やれることからやっ払いこう、できることからやろう」この言葉に何度救われたことか！前向きの姿勢、大きく地区社協の流れを変えた言葉であったと思います。

来年4月から介護保険制度が導入され、在宅介護がテーマの中心となります。ますます地域福祉活動の価値観や地区社協組織の真価がとわれる時代を迎えようとしています。今年度から組織内容を一新、将来にわたって機能できる体制づくりと、各部門自主運営方式に切り替え、役員とスタッフを配置しました。こんなにも人にはすばらしい持ち味があるんだなと感銘しております。自主運営方式と細分化により、責任感とともに地域福祉の内容充実につながり大変喜んでおります。



生きがい創生事業「ロマン寿寿」

地域の人に期待するものがあるとしたら「どうかかわることができるか」が大切なことではないでしょうか。おかげ様で私たち地域では、地域機能開拓と共に多くのリーダーが生まれ育っております。地域活動には他にまねのできない特長と楽しさがあります。地域活動の充実はやがて「ふるさとづくり」の道につながります。「夢を持つことの大切さ」、

「できることからやってみる勇氣」こそが今コミュニティに一番望まれていることかもしれません。

コミュニティ活動は、結果よりもむしろ経過を大切にしたい。こんな思いを最後に私のリーダー論とさせていただきます。

出前防災訓練が好評

中里を住みよくする会

本山トンネルを西に向かって越えると、純農村型地域ともいえる風景が目の前に広がってきます。この自然環境に恵まれた中で、中里を住みよくする会は、事務局の中里公民館と連携をとりながら進めています。

組織は会長1名、副会長3名、総務、青少年育成、環境美化、防災、広報の5つの専門部で構成されています。

特徴的な行事として防災訓練が挙げられます。これまで学区全体で行ってきたのを平成10年度から入四間町、中深荻町、下深荻町、東河内町の4つの町内を巡る出前方式にしましたが、規模は小さくなくても参加しやすくなったと大変好評で、学区全体で行っていたころには2割程度しかなかった参加が、7～8割の住

民の参加が見られるようになりました。

問題点として、ごみの不法投棄、女性の地域活動への参加が少ないことが挙げられます。

広域農道などに慢性的に見られる不法投棄ごみについては、警告看板の設置や年2～3回の巡回を行い防止に努めています。

女性の参加については、今年度から中里学区で取り組み始めるコミュニティプラン策定委員会の中で、女性の参加を推進する方法について考えていきたいとのことです。

中里学区内では、昭和40年代の高度経済成長期の産業構造の転換、また、日立鉾山の閉山などの影響によ



消火器を使って消火体験

り著しく高齢化、過疎化が進行しています。現在65歳以上の人口が33.8%（日立市全体では15%）となっており、人口は30年前の半分近くに減少しているのが現状です。

こういった厳しい状況の中、活気のあるまちづくりを目指して、特殊な条件を生かし、活動に取り組んでいます。

- ・事務局 中里公民館
TEL59-0013
- ・世帯数 610
- ・人口 1,792
(平成11年6月1日現在)

連携を大切にするまち

明るく住みよい久慈まちをつくる会

久慈学区は、日立港から国道6号線の大甕神社付近までの地域で、古くから漁業が盛んなところとして知られています。

明るく住みよい久慈まちをつくる会は「明住会」という通称で地域に親しまれています。事務局は久慈公民館です。

組織は、総務、福祉、環境整備、青少年育成、防災、調査広報の6つの専門部があり、8名の副会長がそれぞれの部を担当しています。

久慈学区の特徴として、各種団体が自立して活動を進めていることが挙げられます。

行事は8月のあきかん・あきびん回収をはじめ、10月の青少年健全育成パレード、11月の歩く会や自主防災訓練などたくさんありますが、同

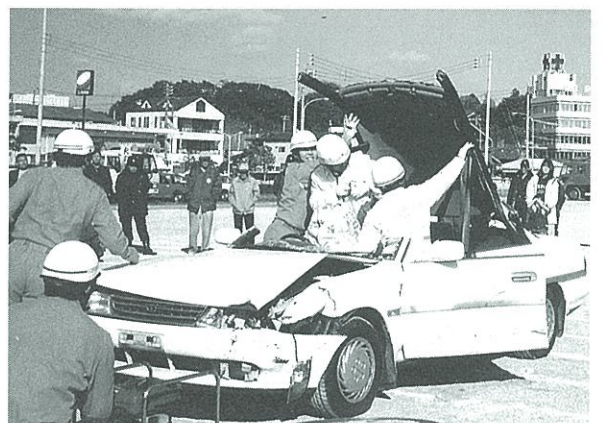
会の中心となる行事は、自主防災訓練と青少年育成パレードです。

特に自主防災訓練は、老人会、ガールスカウト、婦人会、青少年育成会などとともに、臨港消防署、三つ葉幼稚園の鼓笛隊など、高齢者・子ども・行政と幅広い協力の輪をつくり、約800人の参加者で盛大に行われています。内容は、消火訓練・煙体験・救急活動など参加者全員が体験することを目的としています。また、お楽しみコーナーがあり、甘酒、ヨーヨー、非常食(カンパン)など用意され、従来のお祭りのような行事から、いざという時に役立つ訓練を

- ・事務局 久慈公民館
TEL52-3349
- ・世帯数 3,823
- ・人口 10,216
(平成11年6月1日現在)

主体において活動しています。

明住会のこれからの展望は、新しい人材の発掘・養成に力を入れ、更に、地域の結びつきの強い土地柄を生かし、学区全体で行う行事に取り組み、地域の活性化に努めます。



もし車に閉じこめられたら…

日立駅から常陽銀行日立支店までの日立市のメインストリートで、さくらまつりや消防出初め式などでは多くの人出でにぎわう「平和通り」が開通したのは昭和26年12月25日のことでした。

開通を目前に、広く市民から通りの名称公募を行い、「平和通り」に決定しました。この名称は、戦災によって市

街地の大半が廃虚と化し、戦争の傷跡を多く背負った市民にとって、平和への切なる願いと復興への希望の象徴ともいえるものでした。

現在では桜、いちじょう、つつじ、ヤツデなどが植樹され、通りに彩りを添えています。

朝の平和通り

日立の
よいところ



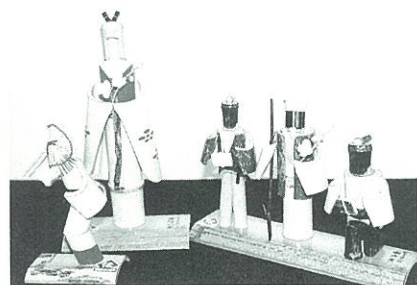
わがまちの匠たち

「只一片^{こころ}耿々の志」

柴田重光さんにお会いする度に、私の胸にしばしばこの言葉が浮かんできます。志とは、あらん日に思いをかけながら、自分を貫いていくことです。志を持っていない人、あるいはそれが極めてあまい人が多い中で、重光さんの心身に秘められている「耿々志」が清々しい風と共に伝わってくるのです。「耿々」とは光芒、「控えめながらキラキラ光る」、「憂いに似た深い思い」という意味があります。

竹人形の世界に入るまでに、重光さんにも紆余曲折の青春彷徨があったとのこと。迷い、焦燥、挫折も幾度か味わいました。しかし、はじめて竹人形と出会ったときに心の中に生まれた、今までにない何物かが重光さんを変えることになりました。新しい自分の再発見。まさに「出会いが絶景」です。絶景に触れた感動が、新しい人生の道に灯をともしましたのです。

とかく今は、自ら考え、汗するという努力体験なしに目先の快適さや便利さが手軽に成就してしまうイー



作品には、ひとつひとつ違う表情が

ひたち竹人形・柴田重光さん

紹介者・飯山利雄さん（城南町）



ジーアクセスの時代です。これと異なり竹人形の世界は、自らの心、自らの手指で、生きた竹と対話しながら、伝統の中にも新しさを生み出していくという自己投入の、どこまでも深い仕事を中心となります。私は、この姿勢を教育、文化のあり方、人間の生き方に結びつけて、大切に考えたいのです。みんなで渡ればこわくない式の平均主義や相対序列主義は、もはや通用しません。もっとも自分らしいことを一生かけて掘り起こし、磨き続けるのです。

「匠の心」とは、自分が納得できるまで求め続けるということ。即ち、より高い完成に向かって歩みをとめない、絶えざる自己凝視、自己実現の日々から生まれるものではないでしょうか。工房での重光さんの姿に、奥様と同行二人の修業僧のような淨らかさを、私は感じました。

おたより募集！

この情報紙についてのご意見・ご感想やコミュニティ活動についての提案などをお寄せください。

また、あなたがおすすめする「日立のよいところ」や「わがまちの匠たち」のご紹介もよろしくお願いいたします。

日立の魅力再発見ウォーク開催中
市制施行60周年を記念して市内各
各地で開催しています。問い合わせ、
申し込みは市役所市民活動課へ。



編集後記

読んでもらえる・役に立つ情報紙を基本方針に、10回以上もの編集会議を経て、本紙を発刊することができました。概ね方針に沿った内容に仕上がったと評価しております。

会議を重ねるごとにスタッフの意見交換が活発になり、次号への大きな力となるものと期待しております。

最後に投稿や取材にご協力いただいた方々に厚くお礼申し上げます。
木名瀬四郎(油繩子)、関山一夫(豊浦)
宇佐美吉郎(日高)、大内十寸(宮田)
柴田百恵(会瀬)、瀬谷千代子(成沢)
斉藤一男(油繩子)、真下久子(金沢)
渡辺由美子(塙山)、大津和子(坂下)
川崎真理子(坂下)